

2025.3.20

NPOフォーラム だより No.115



NPO法人安房文化遺産フォーラム（共同代表：愛沢伸雄, 池田恵美子）

〒294-0045 千葉県館山市北条 1721-1 TEL&FAX：0470-22-8271

E メール awabunka@awa.or.jp 公式サイト <https://awa-ecom.jp/bunka-isan/>

会員・寄付募集中！ 年会費＝正会員 A:10,000 円（総会議決権あり）・準会員 B:2,000 円・法人 10,000 円
（ゆうちょ銀行口座：00260-1-97307 名義 NPO 法人安房文化遺産フォーラム）

● 赤山地下壕が 4/1～見学再開、ガイドサービス（第一日曜）も 4/6～リスタート！

館山市指定史跡の戦争遺跡「赤山地下壕跡」は、一昨年夏に発電室奥の天井一部が崩落し、安全確認と補修のために休壕が続いていましたが、ようやく工事も終わり、4月1日から開壕となります。

全国でも珍しく、掘削した岩壁とコンクリート壁の間に金属（または竹）網が挟まれて強化されていましたが、100年近い年月の劣化も考慮し、この機に大半のコンクリート壁を剥がす工事が自治体によりおこなわれました。一部分のみコンクリート壁が残され、元の状態と隠れていた地層を視認することができます。（右写真）



ガイドメンバー及びサポートスタッフを対象として、3月30日（日）に学習会を兼ねて内見します。希望者は 9:30～豊津ホール にご集合ください。ガイドに関心のある会員も OK です。

また、ガイドサービスは毎月第一日曜 9:30～12:00 に 4月6日より再開します。減少していた平和学習も予約増加が見込まれます。久しぶりの鳴らし運転のつもりでご参加ください。

- ▷ スタディツアーガイド 5/10-11（土日）中央学院大学
5/15（木）PM 私立中学1年バス4台130名

◆ 知恵袋講座

< 知恵袋講座は、NPOメンバーが講師となって、楽しく学び語り合う茶話会です。>

参加費：会員 200 円/非会員 500 円（茶菓子・資料つき）予約不要

< 第 88 回 > 4月13日（日）13:30～16:00 館山市コミュニティセンター 第1集会室

語り手：芳賀裕さん&粕谷智美さん「種牛で日米の架け橋となった“保里ます”物語り」

明治期に 20 歳で渡米した“保里ます”は、夫のジョセフ・デネレーとともに優秀な米国産ホルスタイン種の種牡牛の輸入に関わり、乳牛改良を図って、安房の酪農の発展に貢献したといえます。

この歴史は、新たに古文書や地図類が発見され、嶺岡いきいき館の芳賀裕館長によって調査研究が深められました。ますの出身地・嶺岡牧（南房総市大井）は江戸期に徳川吉宗が白牛を輸入し飼育したことで、日本酪農発祥の地といわれています。

（保里ます肖像画は当 NPO 会員・高橋澄子さん作）



< 第 89 回 > 5月17日（土）13:30～16:00 菜の花ホール 第1集会室

語り手：関和美さん「安房の文化振興に貢献した医師・原進一」

戦後に安房医師会長などの要職を歴任した鴨川の医師・原進一は、図書館長を4年間務めるなど、安房の文化活動の発展に貢献しました。画家の横山大観や寺崎武男、彫刻家の長谷川昂などとも親交が深かったといわれます。医療図書館勤務のかたわら原に注目してきた関さんは、近年遺族から資料提供を受けたことにより、さらに進んだ調査研究を報告します。

◆ すべての生きものが共生する循環の輪について考えてみよう！

映画『うんこと死体の復権』上映&トークショー 高田宏臣×井沢正名 in 安房

4月27日（日）館山市コミュニティセンター 第1集会室 13:00～16:00

参加費 1,000 円（要予約） オンラインで Peatix からチケット購入 ⇒ QR
または TEL090-6479-3498・090-6157-6739/FAX0470-22-8271



主催；安房大神宮の森コモンプロジェクト運営委員会／共催：NPO 法人安房文化遺産フォーラム



映画は、探検家で医師の関野吉晴が初監督を務め、生き物の排泄物や遺骸をとおして、無数の生きものが命をつなぐ循環の輪を見つめたドキュメンタリー。

映画に登場する伊沢正名さん（自称「糞土師」）と、館山市森づくり大使で「安房大神宮の森コモンプロジェクト」代表の高田宏臣さんによるトークショーも乞うご期待。

今でも、安房大神宮の森の山頂近くに古い時代と思われる土葬墓の痕跡が見られるそうです。人間も動物も遺骸を大地に還すことで、微生物や土中生物により豊かな土壌を育み、湧水や川を通して海もまた豊かになり、循環の営みのなかですべての命は生かされてきたと、高田さんはいいます。

<YouTube 公開> 第30回安房地域母親大会は200人参加で大盛況！

2月8日に開催した第30回安房地域母親大会（池田恵美子実行委員長）は、200人の参加者を迎え、プログラムはすべて好評でした。録画は YouTube チャンネル「安房文化遺産フォーラム」で公開しています。ぜひご覧ください。



- ・オープニングの「房州弁で憲法」第14条
- ・講演① 高田宏臣さん「安房大神宮の森コモンプロジェクトへの想い」
- ・講演② 永井玲衣さん「哲学対話～暴力に抗して」
- ・話し合いのひろば

※ 当日資料（記念誌）は500円で頒布しています。ご希望者は事務局へご連絡ください。

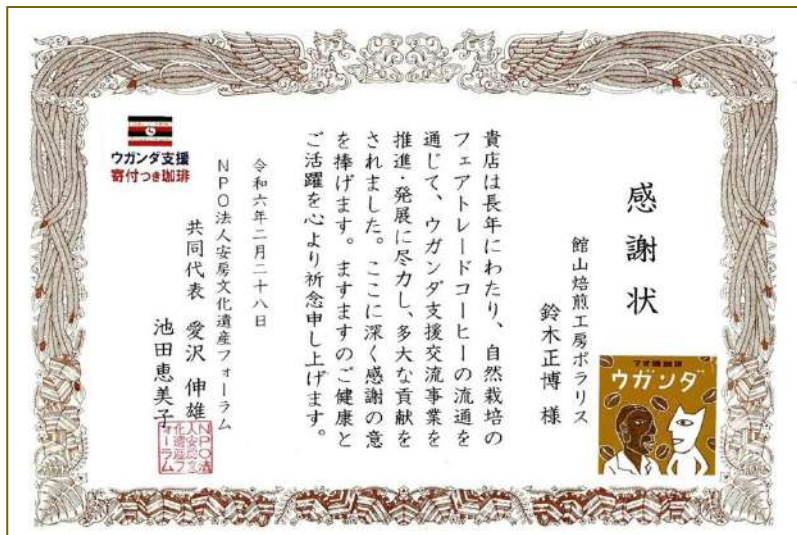
◎ ウガンダ支援コーヒーの取扱店ポラリス閉店のお知らせ

6年半にわたり、自然栽培のフェアトレードコーヒーの流通を推進し、ウガンダ支援交流事業の発展に尽力して下さった「館山焙煎工房ポラリス（鈴木正博代表）」さんが、2月末で閉店となりました。これに伴い、残念ながらウガンダコーヒーの取り扱いも中止となります。鈴木夫妻の健康とご活躍を祈念し、感謝状を贈らせていただきました。

これからは NPO 活動のご参加をお待ちしています。



ご愛飲者・協賛店舗の皆様も、これまでありがとうございました。1994年に安房南高校生から始まり市民活動に広がったウガンダ支援交流は、これからも続きますので、引き続きよろしくお願いたします。



<美術展のお知らせ>

▷ 遥かなるイタリア～川村清雄と寺崎武男展

4月19日(土)～6月8日(日)

目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)

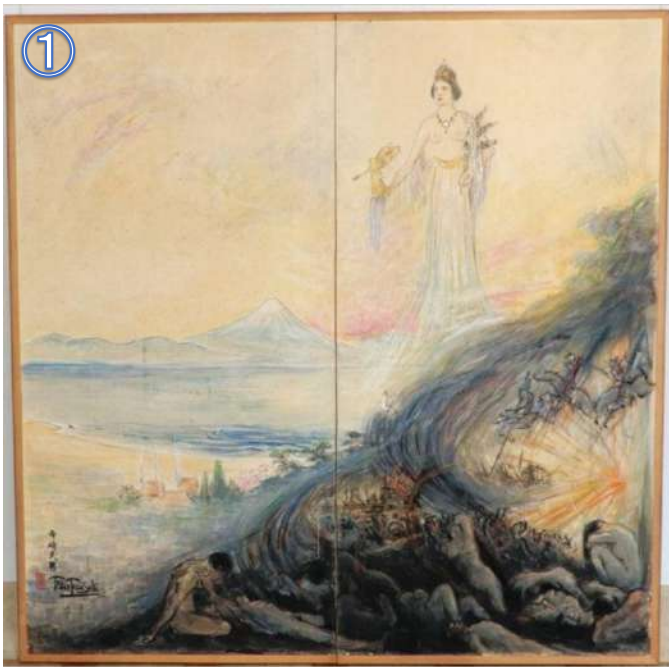
明治期にイタリア留学して東西の文化を深く研究し、日本の近代洋画創造に挑んだ2人の画家、川村清雄と寺崎武男の企画展。特に寺崎は帰国後館山に暮らした縁があり、遺族より多数の作品や書簡スケッチ帳などを寄贈され、調査研究シンポジウムや絵画展を館山でも開催してきました。本展では、NPO 所蔵の9作品や資料類を貸し出しています。東京近郊の方はぜひご鑑賞ください。

4/27(日) 14:00～15:30 講演：石井元章(大阪芸術大学教授)

5/11(日) 14:00～15:00 カトリック碑文谷教会・寺崎壁画見学

5/24(土) 14:00～15:00 担当学芸員の美術カフェ・トーク

当 NPO より
作品貸出の協力!



<NPO から目黒区美術館へ貸出作品の一部>

①『平和来たる春の女神』 1946年春

終戦後の春に描いた屏風絵。富士山に見える神話の浜・布良(めら)の女神山の頂にずっと立つ女神、下部には戦没者の魂、中段に神話世界(スサノウノミコトなどの騎馬隊)のイメージと推察される。

②『天照皇大神 永遠の平和』 1945.8.1

終戦の2週間前に描いた平和祈願の作品。館山湾の向こうの富士山は毎日眺めた心象風景、椰子の木は南洋の戦没者供養かと推察。

③『ヴェニスの子』 フレスコ壁画

1926年三越呉服店ギャラリー「寺崎武男滞伊製作洋画展覧会」出品。明治神宮絵画館建設のために依頼されたヨーロッパ壁画調査と、ライフワークの法隆寺壁画調査のなかで大正期に制作。

<戦後80年企画>

▷ 寺崎武男・平和の祈り展

5月15日(木)～5月25日(日) ※6/8まで延長申請中

渚の駅たてやまギャラリー (館山市館山 1564-1)



◀ 「学校まるごと美術館
～青木繁・寺崎武男
・倉田白羊」展(動画)
2019年GW 富崎小学校

寺崎は、欧州滞在時に2度の大戦を体験し、館山でも最前線航空基地の間近で戦争突入と米占領軍上陸を目撃しており、人一倍強く平和を希求した想いが作品に現れています。

◎ 旧安房南高校 木造校舎の保存活用に関する要望書を県に提出しました。

引き続き署名の協力をお願いいたします！

「女子教育の殿堂」
ぜひ！ 国の文化財に

県指定有形文化財の旧県立安房南高校（館山市北条）の第一校舎を補修など適切に保存して活用し、国指定文化財へ格上げしてほしいと、NPO法人安房文化遺産フォーラムと「安房高等女学校木造校舎を愛する会」が6日、知事、県教育長宛てに要望書を出した。（山本哲正）



旧県立安房南高校の第一校舎と、「安房高等女学校木造校舎を愛する会」のメンバー＝館山市北条で

「安房高等女学校木造校舎」有志ら署名活動

活動を続けている。同会によると、旧第一校舎は、関東大震災を教訓に技術の粋を集め、和洋折衷で優れた意匠を施された。左右対称に大きく羽を広げた白鳥のように美しい姿は、女子教育の殿堂にふさわしいとされた。戦後、安房南高となった。鉄筋造りに変わる時代に、保存された木造の旧第一校舎は、1995年に県指定有形文化財となった。だが、2008年の学校統合で閉校し、日常的には使われなくなったという。同校には、明治期以降に先駆的な女子教育が果たされてきたことなどの貴重な教育資料も多

館山に1930年建築 白鳥のような美観

高く、木造校舎は学校博物館としての活用も期待される。一方で閉校から時がたち、校舎は塗装の剥げや損傷が進んでいる。同会は、県から委託を受けていた見学会が24年度から中止になり、文化財建物の放置と劣化を懸念して署名運動を展開。要望書は「市、県、国と地域住民が丸となって文化遺産を未来に継承するため、国指定文化財への格上げを要望する」としている。

東京新聞 2025.3.15付

※ 新聞活字は、NPO ホームページから見られます。

◎ 旧安房南高校の環境整備

草刈りをします！

3月29日（土）9:00～10:30 ※ 雨天翌日順延

鎌や刈払い機をご持参ください。

タイミングが良ければ、桜が楽しめます。



美しい木造校舎はまもなく 100 歳を迎えますが、学校統合による閉校から 17 年。使われていない文化財校舎の放置と劣化を懸念し、千葉県知事と教育長あてに、修復・塗装などの適切な保存、活用と国指定文化財への格上げを要望する署名 3,156 筆を 3 月 6 日に提出しました。

その後の 10 日間でも、すでに 200 筆の署名が寄せられています。引き続き、世論の声を高めていきましょう。家族友人知人に協力をお願いし、集めた署名用紙は、郵送または FAX で事務局へお送りください。オンライン署名は、記事内の QR コードから賛同をお願いします。

安房南高校 旧第一校舎 保存活用と国文化財格上げ求め 館山
県と県教委に要望書



要望書と署名を県職員に手渡す関係者ら＝館山



同校舎は、関東大震災で建設され、古く日本の要素が融合したデザインが特徴だ。1930年に建築されたこの校舎は、中央に玄関があり、左右対称に広がる外観が当時の学校建築の典型を示している。木造2階建ての構造は、欄間付き格子窓が並び、開放的な雰囲気を感じ出している。95年3月に県指定の文化財となった。

要素が融合したデザインが特徴だ。1930年に建築されたこの校舎は、中央に玄関があり、左右対称に広がる外観が当時の学校建築の典型を示している。木造2階建ての構造は、欄間付き格子窓が並び、開放的な雰囲気を感じ出している。95年3月に県指定の文化財となった。

校舎は2008年に財を生かしたまらつくることが地域活性化に学校統合により閉校。その後、校舎を管理する県教委は一般公開を行って来た。18年から地元の安房文化遺産フォーラムが県教委から委託を受け、安房高等女学校木造校舎を財課の職員に手渡し愛する会と協力して、校舎の公開を実施して来た。23年の公開には地域内外から約760人が訪れ、校舎内に残る貴重な教育資料などを見学した。しかし、24年からは防火設備の問題で公開が中止され、現在は維持管理が行えない状況にある。

両団体は、保存と適切な管理を求め、昨年7月から署名活動を開始。用紙とオンラインで計3156筆の署名が集まった。また、要望書には、他地域の先進事例を参考に、文化財として保存・活用す

片方会長は、「一般公開で訪れた卒業生たちの喜ぶ姿が忘れられない。ぜひとも、再び校舎の開放を実現してほしい。また、来場者の笑顔が見たい」と述べた。また、愛宕代表は「校舎は地域にとって魅力的なランドマーク的存在であり、文化財として保存・活用す

2団体は、県と県教委に要望書と署名を提出した。NPO法人安房文化遺産フォーラム（愛宕伸雄代表）と安房高等女学校木造校舎を愛する会（片方義明会長）は6日、館山市北条の県指定文化財「安房南高等学校旧第一校舎」の保存活用および国指定文化財への格上げを求め、県と県教委に要望書と3156筆の署名を提出した。

2 団体が 3156 筆の署名とともに

両団体では引き続き多くの市民らに賛同を得るべく署名活動を展開していく。オンラインでの署名は二次元コード画像から、署名についての問い合わせは、池田恵美子さん（090・6479・3498）へ。（押本裕也）

房日新聞 2025.3.9付